



私の好きな場所

佐々木 弓 (室蘭支部)

今年の夏が始まる頃、家族4人で引越をしました。築41年、お世話になった家は、修繕を繰り返しながら、なかなかの居心地の良さで暮らしていました。そんな中、数年前に父が病気になる、1階に寝室があった方が暮らしやすくだらうと思った事や、子供が成人したことで生活リズムが変わり、生活音や照明の光がお互いの生活に影響を与えるようになった事が『家をどうにかせねば!』と思う切っ掛けになりました。そう思い立ってから、中古物件を探し、見学に行き、資金計画をたて、家族会議を繰り返す日々が続きました。今より暖かくて光熱費がかからない家を…と思うとなかなか気に入った物件が見つからず、このまま迷宮入りか?と少々心が折れかけた時、現在の家と出会いました。この家は築54年と以前の家より13年も年上の木造2階建ての住宅でしたが、いったん骨組みまで解体してから家づくりされたリノベーション住宅でした。



解体前 → 解体後

基礎外周部に断熱材、床下に防湿コンクリートが施工されています。



施工前 → 施工後

軸間にグラスウールと60mmの付加断熱を外壁面に施工。



グラスウール 付加断熱

階段室に上がった暖かい空気を床下まで循環させています。



床下の機械と2階のダクト

屋根の上には太陽光発電のパネルを搭載しています。



太陽光パネル OSB合板施工

窓は樹脂サッシでトリプルガラスを使用。2階部分は結果的に新築です。OSB合板の施工で強度の心配もありません。間取の念願もありません。寒い冬が嫌いですが、今は冬を待ち遠しく感じています。コロナの渦中でステイホームをどう楽しむかが話題だった昨今、私はとにかく家にいたいです。



お気に入りの物置です

この家を施工した社長さんとスタッフさんが組立てくれました。1000枚を超える施工写真と共にお引渡を受けた『家』が私の好きな場所です。

北見の歩き方

佐々木洋子 (北見支部)

「北見」といえば、「ハッカ」・「カーリング」・「焼肉」ではないでしょうか。今回はハッカに関係の深い建物について、ご紹介したいと思います。

明治35年頃から生産が始まった北見のハッカは、昭和14年頃には世界市場の約70%を占める代表的な産業の一つでした。

「北見ハッカ記念館・薄荷蒸留館」は、北見の特産品である「ハッカ」の歴史がわかる資料館で、北見市指定文化財、日本近代産業遺産に指定されています。

内部は建築された当時の面影がわかるものが随所に残されていて、階段の手すり・ドアノブ・照明器具、そして輸出に使われていたとてもかわいい木箱等があります。別棟の薄荷蒸留館では、薄荷の蒸留実演の見学や、ハッカ油とエッセンシャルオイルを使ったクリーム作りの体験もできるそうです。



北見ハッカ記念館(右)・薄荷蒸留館(左)

北見には、令和2年10月にオープンした通年型のカーリングホール(アルゴグラフィックス北見カーリングホール)や、人口に対する割合で焼肉の店舗数が有数(「北見厳寒の焼き肉まつり」が全国的に有名)であるなど、「見る」・「遊ぶ」・「食べる」ところがたくさんありますので、コロナ禍が終息したら是非北見へお越しください。